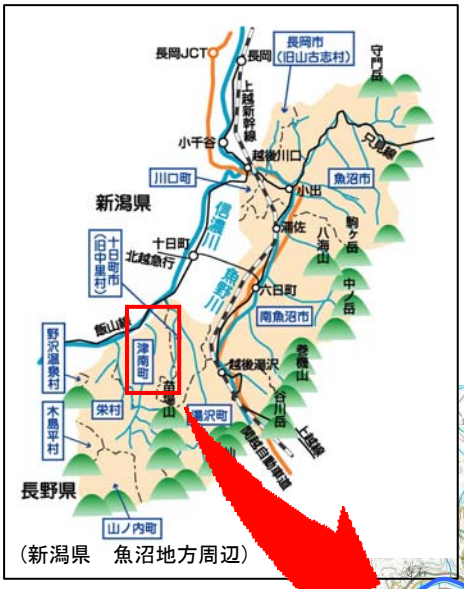
平成 19 年度 **魚沼自然塾** 第２回レポート

平成１９年１０月発行

国土交通省湯沢砂防事務所

９月８日土曜日、「中津川流域の自然と地域力に学ぶ－秋山郷の挑戦」をテーマに、第２回魚沼自然塾を開催致し、１１３名の皆様にご参加いただきました。

中津川流域の砂防施設見学や山道の散策で秋山郷の自然を肌で感じ、地域づくりに取り組んでいらっしゃる方々のお話などを聞いていただきました。

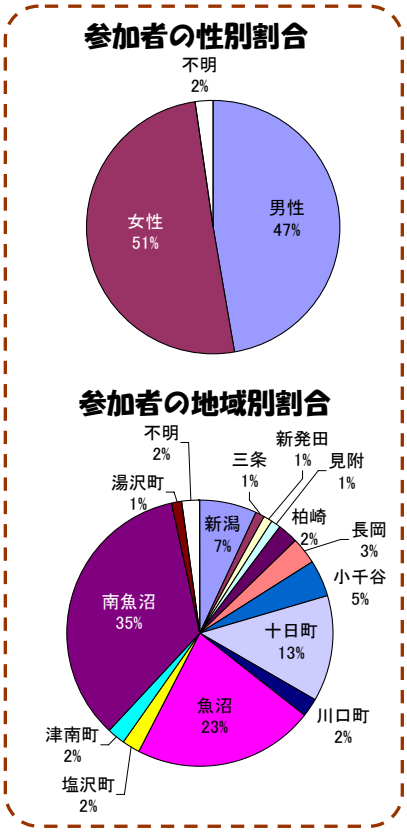


（新潟県　魚沼地方周辺）

◇◆　プログラム　◆◇

９：１５	津南駅出発
９：３５	展望台にて砂防施設の説明
１０：２０頃	２つのコースに分かれ、散策 ①見倉の吊橋コース　②林間コース
１１：４０頃	上結東砂防えん堤見学
１２：２０頃	かたくりの宿にて昼食、 ご当地トーク
１４：００頃	バス出発、津南駅で解散

バスで中津川上流へ向かいます



中津川床固工群

中津川は、昔から土石流や堤防･護岸等の決壊などの災害が多い川です。
中津川下流域で、災害から守るため流れを安定させる床固工群を整備しています。

中津川の段丘上にある展望台で中津川床固工群について説明しました。

中津川床固工群（手前は第４号床固工・橋上流は第３号）

すばらしい眺めに写真を撮る参加者もいらっしゃいました。

<<参加者の感想～展望台から見て～>>

・雄大、長い年月の自然の力を感じた。（南魚沼市／男性）
・一人で見学するのがもったいないくらい素晴らしい景色だ。（長岡市／男性）
・美しい田畑が一面に広がり、これが床固工のおかげかと思った。（十日町市／男性）
・迫力もあり景色も良く、説明を聞き災害を防ぐことがよくわかった。（南魚沼市／女性）
・日本の原風景を見た。素晴らしい景色で、床固工も景色を壊してなかった。（南魚沼市／女性）

散策

２つのコースに分かれ、参加者の皆さんに秋山郷の自然を散策していただきました。

見倉の吊橋コース

見倉の吊橋コースでは、少し急な山道を下って、中津川まで下りていきました。

見倉の吊橋。『にいがたの橋　50 選』にも入っており、映画の撮影にも使われた場所です。

林間コース

林間コースでは、新潟県自然観察指導員の南雲敏夫さんに植物について説明をしてもらいながら、山道を散策しました。

山道は木の葉に覆われ、フカフカの状態。きのこやねずみの巣穴など見つけました。

<<参加者の感想～散策コースについて～>>

吊橋コース：

・車のない時代の秋山の人々の生活を少し感じることができた。（新潟市／男性）
・吊橋と自然のコントラストが素晴らしかった。（川口町／男性）
・吊橋の冷や汗と歩いた汗がミックスの心地よさ感じました。（魚沼市／女性）
・山道には足から伝わる落ち葉の感触が心地よく、良い汗をかきました。（南魚沼市／女性）
・仕事で津南、秋山郷は何度も来ていたが、こんなコースがあるとは思わなかった。（南魚沼市／男性）

林間コース：

・歩いた道がとっても気持ちよかった。くずの花匂いがとってもさわやかだった。（南魚沼市／女性）
・いろいろ教えていただきながらの散策はなかなか機会がないのでよかった。（南魚沼市／女性）
・手つかずの自然が最高。いつまでもこのままでいてほしい。（南魚沼市／女性）
・ブナ林の中の足元が気持ちよく、南雲さんの話も楽しかった。時間が少々短かった。（津南町／女性）

上結東砂防えん堤

高さが 33m あるアーチ式の砂防えん堤で、湯沢砂防の管内で最も高い砂防えん堤です。

砂防えん堤は上流に土砂をためることによって地形を変え、上流の流れをゆるやかにすることで土砂が下流へ一気に流れ出るのを防ぎます。

アーチ式砂防えん堤は、重力式砂防えん堤に比べてコンクリート量を減らすことが出来るため、経済性に優れています。

アーチ式の上結東砂防えん堤。
台風の雨による増水の影響が残っていました。

小竹調査課長が、砂防えん堤のはたらきなどについて説明しました。

<<参加者の感想～散策コースについて～>>

・水量が多かったので迫力があった。
砂防えん堤の働きについて、詳しく説明があり、面白かった。（新潟市／女性）

・えん堤の上流の広さ。なだらかさを見た。（女性）

・蓄積された土砂が少しずつ流されていつまでもこの働きが絶えないという話しを聞いてホッとした気がした。（南魚沼市／女性）

・流水量、土石の量、地形など人間の知恵が結集された砂防えん堤が、人間のみならず自然も守り、人間と自然との共存をもたらしていることを知った。（南魚沼市／男性）

かたくりの宿にて：昼食など

「秋山紀行」を朗読する俵ヒカリさん

昼食の時間を利用して、鈴木牧之が著した「秋山紀行」を紹介しました。

牧之が秋山郷で見かけた風習や家のつくり、厳しい自然とそこで暮らす人々について「秋山紀行」にはいきいきと書かれています。

今回は、一部割愛したものを物語にアレンジして、紹介しました。

昼食風景

ご当地トーク

源平の戦いで敗れた平家の落人が住み着いたといわれる秋山郷。現在は、上流側半分が長野県栄村、下流側半分が新潟県津南町となっています。

秋山郷で暮らす地元の方をゲストに向かえ、秋山郷の暮らしや厳しい自然、地域づくりについてお話を伺いました。

＜＜お話の内容＞＞

滝沢政則さん：雪かきの時など困った時は、みんなで助け合って、声掛け合って･･･それが一番大事な地域のことだと思います。ここでの暮らしでいいところは、自分の家の田んぼを耕して、畑を耕して、あとは除草みたいな管理をして、他の集落に比べたらのんびりしているところですね。

相澤博文さん：雪国というこの地域には、まだまだ今の世の中にも通じる仕組みや資源、いろいろな可能性があると思います。そういうことを雪国から発信していき、子供達には雪国の体験を通じて健全に育ってもらいたいなあと思います。

滝沢寿一さん：地元の中高一貫校で、水というのをテーマに外部講師をしていますが、子供が感じやすい時期に難しい話よりも体験する機会を多く作る方がいいのかなあと感じます。自然の恵みを受け、自然に還す･･･そのなかで生きていくということが大事と思います。

参加者の様子

トークにも熱が入ります

資料を見たり、メモを取ったり

相澤さんの仲間による演奏

素敵な演奏に、参加者からは手拍子も

＜＜参加者の感想～ご当地トークを聞いて～＞＞

- やさしい語りで分かりやすく、良かった。厳しい自然環境の中では、特に助け合いは大切だと感じた。（川口町／女性）
- 住めば都。こんな山奥に良いところがたくさんあり、秋山郷を見直した。（南魚沼市／女性）
- これだけ自然が豊かな秋山郷も、自然を守る活動が必要なこと初めて知った。（新潟市／男性）
- 共存ということが理屈抜きで生活の中に入っていると思い、大切さ、すばらしさを感じた。（十日町市／女性）
- 地域にあったテーマを活かすことの重要性が理解できた。自分の地域でもできないか。（魚沼市／男性）
- 砂防＝地域おこしへ繋がることを感じた。（南魚沼市／女性）

編集後記

今回は台風の余波が心配されましたが気温も程良く、たくさんの方に中津川流域を体感いただきました。

山深い秋山郷の昔と今、ありのままの自然を受け入れ、将来につないでいこうとする地域の方々の努力、砂防事業が影ながらそんな中山間地域を守っていることなどを紹介させていただきました。ご参加の皆様からはたくさんの貴重な感想を、地元の皆様には多大なご協力をいただきましたことを御礼申し上げます。

次回は１０月２７日の開催を予定しています。自然と文学と温泉のまち湯沢で、地域づくりについてともに考えたいと思っております。

お問い合わせ先：国土交通省 湯沢砂防事務所「公開講座事務局」

TEL：025－784－2073　FAX：025－784－2441

ホームページ：http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/